



『家族』

園長 笛木 哲

知らぬ間に日が短くなりました。午後7時頃まで明るかったのが、午後6時半には夜が訪れるようになりました。あれほどうるさく、暑苦しく感じた蟬の音が、過ぎゆく夏の忘れ物のように愛しく、大切に感じられます。季節は、夏から秋へ変わり、子どもたちの知力体力がぐんぐん伸びる2学期がスタートします。

この夏、22年ぶりに東京でオリンピックが開催されました。スケートボードやサーフィンなどの新しい競技に若い命が輝きました。メダルが確実にでも果敢に攻める姿。国や人種の垣根を越えて喜び合い慰め合う姿。そして12歳の金メダル。新しい時代を感じます。私たちが想像も出来ない未来を生きる『とねがわ幼稚園の子どもたち』の将来を想像すると、胸がワクワクしてきます。

競技終了後のメダリストへのインタビューでは、「この喜びを誰に一番に伝えたいですか。」という質問が繰り返されます。すると決まって「家族です。」と誇らしそうに答える選手の顔を今回も何度も見つけました。たくさんの名誉や栄冠だけでなく、競技人生を諦めるほどの事故や挫折、心の迷いや苦しみ、そんな一切合切を家族が共に飲み込んでくれたからこそ今があり、それは感謝でしかない。そういう素直で特別な気持ちが「家族です。」という言葉に表れているのだと思います。

サーフィン女子で銀メダルのピアンカ（南アフリカ）さんは、幼い頃からサーフィンを始めます。まだ女性サーファーが珍しい時代でした。それを理由に親に制限されたことは一度も無かったそうです。学校のことなどには厳しくても、サーフィンに関してはいつも全力で応援してくれた優しい父や母。そんな『家族』のことを、「親は子どもに見返りを求めない、無条件の愛を与えられる唯一の存在だと思う。ここまで成長できたのは、父と母がいたから。本当に感謝しかない。」と語っていました。

『家族』とは、子どもたちにとって、世界で最も安全で、心穏やかに過ごせる場所であり、信頼・共感・尊敬し合える関係にあることは、世界中どこでも同じなのですね。

この夏見つけた年少の男の子の会話です。先に帰るお友達が「また遊ぼうね。バイバイ」と伝え、「気をつけて帰ってね。」と応えます。相手を思う心が言葉になって出てくるなんて、なんて素敵な会話なのでしょう。そのことを担当がお母さんに伝え、お父さんの職場に行った帰り際に、お父さんはいつも「気をつけて帰ってね。」と見送ってくれるのだそうです。お父さんの優しい言葉がけを、知らぬ間に息子さんが受け継いでいたのです。ここにも『家族』の愛を見つけました。



新しい職員の紹介

9月から、さくら組の補助として野村弘子が保育に参加します。
これまで補助をしていた菅野美和は、さくらんぼの担当になります。
初めての仕事ですが、やり甲斐を感じています。よろしくお願いします。



夏のできごと



お母さんから「どこにも出られず、家の中で息を潜めて過ごした夏休みでしたが、川越私立幼稚園協会の観劇ビデオを子どもと一緒に観ました。娘はビデオを観るのを楽しみにし、私も思わぬ発見がありました。」と報告してくださいました。外の空気に触れて思う存分過ごすことが難しかったこの夏、それぞれのご家庭では、どのようにお過ごしになったのでしょうか。夏の子どものことばです。

○絵本の部屋にいた年長さんたちに「お姫様ってどんな人？」と質問すると、「かわいい人」「きれいな人」「命令する人」「大きな椅子に座っている人」「きれいな服やドレスを着ている人」と教えてくれました。続いて、「自分のことをお姫様だと思いますか？」と聞くと、大きく「うん」と頷いてくれました。物語ではお城の中にたった一人のお姫様。でもとねがわ幼稚園にはたくさんのお姫様。私は幸せ。

○バスで帰宅途中の年長さん。降り出した雨の粒が、バスの窓に流れているのを見て「あっ流れ星だ。●●(妹の名前)見て！」とつぶやきます。子どもは生まれつきの詩人なんだなあと感動。

新型コロナウイルスの脅威に負けない！

子どもへの感染は少ないと言われていた新型コロナウイルスですが、感染力の強い変異株の出現により、子どもへの感染が広がっています。本園でも、夏休みが明けの9月1日以降、どのように子どもたちをコロナウイルスから守るかが大きな課題です。職員には、発熱等風邪症状があるときには、出勤停止を命じています。対策をどこまで進めればいいのか正解のない問いに、教職員一丸となって知恵を絞り取り組んでいます。

園内での感染を防ぐために、感染防止対策の継続（本日記布の「【重要】二学期の感染防止対策について」をご覧ください。ご家庭で体調不良者が一人でもいたら登園させない、発熱があった場合、体温が下がっても1日は様子を見てから登園させる等、ご家庭には厳しい内容も含まれています。）をお願いします。

感染しない、感染させないようにご家庭も幼稚園も最善の努力をしてまいりましょう。仮に感染が判明した場合は、拡大しないよう早期に対応し、食い止めましょう。ひとたび感染が起きた場合は、一部あるいは全部が休園となります。休園することで最も被害を受けるのは、子どもです。子どもたちの笑顔を守るために、大人のがんばりどころです。